

平成24年度墨田区予算案発表資料（平成24年2月10日）  
～ 水と歴史のハーモニー～ 人が輝く いきいき すみだ ～

1 活力と魅力あふれる「すみだ」をつくりあげるために優先的に実施する施策

- 東日本大震災を踏まえて、安全で安心して暮らせる「すみだ」をつくる
  - 不燃化の促進（1-1-1）
  - 木造住宅耐震改修等の促進（1-1-2）
  - 緊急輸送道路沿道建築物等の耐震化（1-1-3）
  - 防災ラジオの配付（1-1-4）
  - 防災情報システムの強化（1-1-5）
  - 応急対応物資の整備・備蓄（1-1-6）
  - 避難所における太陽光発電照明灯の整備（1-1-7）
  
- 東京スカイツリー®の開業を契機ににぎわいのある「すみだ」をつくる
  - 国際観光都市の推進（1-2-1）
  - 「すみだ観光まちびらき」の実施（1-2-2）
  - 「産業観光プラザ すみだ まち処」の運営（1-2-3）
  - 地域ブランド戦略の推進（1-2-4）
  - （仮称）「アウトオブキッサニア in 墨田区」への支援（1-2-5）
  - 観光回遊性の向上（区内循環バスの運行）（1-2-6）
  - 東京スカイツリー®周辺主要道路の景観整備（1-2-7）
  - 東京スカイツリー®周辺地域の美化推進（1-2-8）
  - 区内共通プレミアム商品券の発行（1-2-9）
  - 東京スカイツリー®開業区民祝賀イベントの実施（1-2-10）
  
- 安心して子育てができ、高齢者がいきいきと暮らせる「すみだ」をつくる
  - 待機児解消（保育園の耐震化等）への取組み（1-3-1）
  - 新たな子育てニーズへの対応（1-3-2）
  - 高齢者みまもり相談室の運営（1-3-3）
  - 大都市・小規模ケアハウスの整備（1-3-4）

2 持続的に発展する「すみだ」をつくりあげるために着実に推進する施策

- 「すみだ」らしさの息づくまちをつくる
  - すみだ 北斎美術館の建設準備（2-1-1）
  - 歴史文化公園の整備（2-1-2）

吾妻橋防災船着場の整備（2-1-3）  
すみだ花の道の整備（2-1-4）  
緑と花のまちづくり推進（2-1-5）

●地域で快適に暮らせる「すみだ」をつくる

両国地区まちづくり（ランドデザインの策定）（2-2-1）  
曳舟駅周辺地区の整備（2-2-2）  
京成押上線立体化の推進（2-2-3）  
東武伊勢崎線（曳舟～業平橋駅）立体化の推進（2-2-4）

●新しい事業が起き、人が集まる「すみだ」をつくる

買い物弱者への支援強化（2-3-1）  
雇用促進就労支援事業（若年者就職サポート事業）（2-3-2）

●安心して暮らせる「すみだ」をつくる

障害児放課後等デイサービス施設の整備（2-4-1）  
すみだ障害者就労支援総合センターの運営（2-4-2）  
がん対策の充実（2-4-3）  
放射性物質の測定・監視（2-4-4）  
学力向上「新すみだプラン」の推進（2-4-5）

●協治（ガバナンス）・協働で「すみだ」をつくる

まちづくり提案事業の支援（基金設置）（2-5-1）  
地域プラザの整備（2-5-2）  
統合新図書館の開館（2-5-3）  
大学誘致の推進（2-5-4）

**3 緊急経済対策 平成 24 年度墨田区緊急経済・雇用対策**

1-1-1

件名	不燃化の促進
予算額	114,081千円
主旨	<p>墨田区は、震災や戦災によって壊滅的な被害を被った経験があること等から、全国に先駆けて昭和54年から不燃化促進事業を実施しており、当初は34.1%だった区内全域の不燃化率は、平成22年度末現在66.3%となっている。</p> <p>しかし、京島地区や鐘ヶ淵地区等、区の北部地域では、木造住宅が密集しており、不燃化率が55.2%に留まっていることから、引き続き、老朽建物の不燃化が課題となっている。</p> <p>このため、平成24年度から、木造建築物の防火性能の向上を図る改修に要する経費の一部を助成する23区初となる新不燃化促進事業を創設し、市街地の防火性能を向上することにより「燃えない・壊れないまちづくり」の推進を図る。あわせて不燃建築物への建替えを促進するため、不燃化事業の見直しを行う。</p>

1-1-2

件名	木造住宅耐震改修等の促進
予算額	82,555千円
主旨	<p>阪神・淡路大震災において、建築物の倒壊による被害が多発したことから、墨田区では、平成7年度から民間建築物耐震診断助成を、また、平成17年度からは耐震改修費用の助成事業を実施してきた。</p> <p>しかし、区内の耐震建築物の割合は34.5%と依然として低い状況にあり、その中でも、旧耐震基準（昭和56年5月以前の耐震基準）で建築された木造住宅の耐震補強等が大きな課題となっている。</p> <p>このため、区では、これまでの木造住宅の耐震化事業をより一層推進させ、地震による木造住宅の倒壊等の被害から区民の生命、身体及び財産を保護することにより、災害に強いまちを目指す。</p>

1-1-3

件名	緊急輸送道路沿道建築物等の耐震化
予算額	255,258千円
主旨	<p>首都直下地震の発生が危惧されているなか、東京都が平成24年度から新たに特定緊急輸送道路（緊急輸送道路のうち、特に沿道の建築物の耐震化を推進する必要がある道路）沿いの建築物に対して、耐震診断を義務付けることとなった。</p> <p>そこで、墨田区では、対象建築物の所有者等に、耐震診断、補強設計及び耐震改修について経費助成を実施し、費用負担の軽減を図り、緊急輸送道路沿道の建築物の耐震化を促進する。</p>

1-1-4

件名	防災ラジオの配付
予算額	8,715千円
主旨	<p>墨田区では、災害情報等の提供手段の一つとして、防災行政無線を活用しており、公園、小中学校の屋上等、区内60か所にスピーカー等の放送設備を設置している。また、このスピーカーから発信される情報を、区内166の町会・自治会に設置している戸別受信機により放送している。</p> <p>しかし、防災行政無線は、屋外スピーカーから発信されるため、密閉度の高い住宅の室内で聞き取ることが困難な場合が多い。こうしたなか、東日本大震災以後、地域における災害情報の提供に対する区民の関心が高まっており、災害に関する確実な情報提供がより一層求められている。そこで、防災行政無線の情報を室内どこでも受信でき、かつ持ち運びが便利な防災ラジオを配付することで、区から区民への情報提供力を強化し、災害対応力の向上を図ることとする。</p>

1-1-5

件名	防災情報システムの強化
予算額	24,838千円
主旨	墨田区では、東日本大震災を教訓に災害発生時に区民及び帰宅困難者・滞留者に対して迅速に防災情報を提供することを目的として固定系屋外子局の増設と地域系デジタル無線機の設置を行う。

1-1-6

件名	応急対応物資の整備・備蓄 (東京スカイツリー®危機管理ベース・要援護者避難所対策等)
予算額	46,251千円
主旨	<p>東京スカイツリー®開業に伴い、墨田区には観光客やタワー街区に勤務する従業員等多くの人が集まることが予想される。このため、区では大規模な災害が発生した場合を想定し、スカイツリー周辺を新たな防災の拠点として位置付け、タワー西街区商業棟・中2階部分に区の「危機管理ベース」(高所カメラ操作機器・区防災備蓄倉庫・無線司令室)の整備を進めてきた。</p> <p>危機管理ベースは平成24年5月から運用が開始されることから、区防災備蓄倉庫に必要な物品及び資機材等の配備を行うとともに、周辺の避難所への追加物資の搬出拠点として活用していく。</p> <p>また、あわせて区内各避難所に応急対応物資の整備・備蓄の拡充を行い、災害発生後の避難所生活者の中でも、特段の配慮が必要な要援護者に対するの備品・物資の配備を行う。</p>

1-1-7

件名	避難所における太陽光発電照明灯の整備
予算額	62,500千円
主旨	<p>墨田区では、小中学校及び廃校となった旧学校施設等が、地域住民が一時的に生活する避難所予定施設（一部施設は震災等の際に避難する場合の一時集合場所）となっていることから、防災機能のより一層の充実が求められている。</p> <p>そこで、区では、夜間発災時や停電時の目印とするため、一般電源を必要としない太陽光発電照明灯を避難所となる42施設（区立小学校25校、区立中学校12校、旧学校施設等5施設）に今後、1基ずつ設置する。平成24年度は、全ての区立小学校に設置する。</p>

1-2-1

件名	国際観光都市の推進
予算額	215,269千円
主旨	<p>東京スカイツリー®の開業に伴い、墨田区を訪れる観光客（来街者）の数は、年間でスカイツリー街区だけでも浅草に匹敵する2500万人以上と想定されることから、本区の観光振興の基本戦略である「まち歩き観光」を推進するための施策をより一層強化して実施する。</p> <p>具体的には、来街者の回遊性を高め、文化・歴史のまち歩きに加え、本区の魅力である「ものづくり」や「工芸」等の体験と組み合わせたコースを開発する等、まち歩きのきっかけとなる魅力ある仕掛けづくりを行う。また、東京スカイツリーの建つまち「すみだ」の魅力を国内外に発信し、墨田区観光振興プランの目標である「国際観光都市すみだ」を目指す。</p>

1-2-2

件名	「すみだ観光まちびらき」の実施
予算額	30,000千円
主旨	東京スカイツリー®が開業する平成24年度は国内外からの墨田区への注目度がピークに達すると想定される。この期間（～平成25年3月）を“国際観光都市すみだ”のまちびらきと位置づけ、観光誘客に向けたキャンペーンを「すみだ観光まちびらき」として、平成23年度に引き続き、平成24年度も展開し、すみだの観光の魅力を国内外へ強力にアピールする。

1-2-3

件名	「産業観光プラザ すみだ まち処」の運営
予算額	159,249千円
主旨	東京スカイツリー®を訪れる多くの観光客にすみだの特色と魅力を発信し、区内を広く回遊してもらうために、区内の産業・文化・歴史・観光等を堪能・体感できる機能を有した国際観光の拠点となる「産業観光プラザ すみだ まち処」を東京スカイツリータウン®の開業に合わせて開設する。

1-2-4

件名	地域ブランド戦略の推進
予算額	60,000千円
主旨	<p>東京スカイツリー®開業年の平成24年度は、これまで以上に国内外から墨田区に注目が集まることが予想されることから、その好機をとらえ、ものづくりのまち「すみだ」を内外にPRする「すみだ地域ブランド戦略事業」（平成21年度開始）をさらに推進する。</p> <p>具体的には、これまで実施してきた「すみだブランド認証」や「ものづくりコラボレーション」等で培った成果をもとに、国内外の展示会出展等を通じた販路開拓や商品開発等に注力し、区内企業の技術力の高さと商品の魅力を発信していく。</p>

1-2-5

件名	(仮称)「アウト オブ キッズニア in 墨田区」への支援
予算額	3,939千円
主旨	<p>墨田区では、区内産業と生製品のイメージアップ運動として、昭和60年から「すみだ3M（スリーエム）運動（※）」を展開し、墨田のものづくりを積極的にPRしている。</p> <p>このようななか、5月の東京スカイツリー®開業に伴い、増加が予想される来街者に対して、区のものづくりを効果的にPRするためには、産業観光の視点から、来街者のニーズにあった施策を展開することが重要である。</p> <p>そこで、3M運動に参加する事業者等が「キッズニア東京（KidZania Tokyo）」（子どもが様々な職業を体験することができる施設）の運営事業者（KCJ GROUP(株) 中央区佃一丁目11番8号）の協力を得て、伝統工芸等の子ども向け職業体験プログラムを開発、実施することにより、区のものづくりをPRするとともに、観光回遊性を高める。</p>



1-2-6

件名	観光回遊性の向上（区内循環バスの運行）
予算額	50,427千円
主旨	<p>東京スカイツリー®の開業は、墨田区のまちの姿や住民の暮らしに大きな変化をもたらすことが予想される。</p> <p>区としてはこの機会を、区が「国際観光都市すみだ」へと発展していく好機と捉え、平成20年度から区内循環バスの運行に向けた調査・検討を進め、平成24年3月20日に運行を開始することとなった。</p> <p>そこで、平成24年度は、スカイツリーを訪れる多くの観光客の区内回遊性の促進と、区民の生活利便性向上のため、「住んでよく、訪れてよいまち」の実現へ向け、区内循環バスの安全・快適・正確な運行を目指す。</p>

1-2-7

件名	東京スカイツリー®周辺主要道路の景観整備
予算額	856,789千円
主旨	<p>東京スカイツリー®の完成後には、墨田区に多くの来街者が訪れることになり、周辺道路は観光バス等の大型車をはじめ、車両通行量の増加が予測される。</p> <p>そこで、言問通り、桜橋通り、(仮称)タワービュー通りについて、電線類の地中化・歩道の拡幅・カラー化・バリアフリー化や街路樹の植替え等を行い、安全な歩行空間を確保するとともに良好な都市景観の創出を目指す。</p>

1-2-8

件名	東京スカイツリー®周辺地域の美化推進
予算額	29,014千円
主旨	<p>平成24年5月の東京スカイツリー®開業により、多くの観光客等が墨田区を訪れることが予測される。そこで、スカイツリーの開業にあわせ、区内全域でクリーンキャンペーンを実施し、スカイツリー周辺地域のまちの美化やごみ減量に地域ぐるみで取り組むことにより、地域全体でおもてなしの心を醸成する。</p> <p>また、スカイツリー開業に伴う観光客や本区の人口の増加によりごみの増大が懸念される周辺の道路や地域等を、まちの美化とごみ減量の重点地区とし、区民、事業者、区の三者が協力してまちの美化に取り組む。また、重点地区ではごみの収集や分別についても徹底を図り、ごみ減量を推進する。</p>

1-2-9

件名	区内共通プレミアム商品券の発行
予算額	39,000千円
主旨	<p>区内商店・商店街は、大型店の出店や後継者難等から非常に厳しい経営環境にある。このため墨田区では、平成22年度に商店街活動に対し大型店等の協力を求める規定を盛り込んだ「墨田区商店街活性化に関する条例」を施行したほか、墨田区商店街連合会への補助を通じ、区内全域を対象にしたポイントカード事業を開始する等、商店街等の活性化につなげる取り組みを行ってきた。</p> <p>これらの取り組みに加えて、平成24年度は、東京スカイツリー®の開業を契機に、プレミアムのついた区内共通商品券を発行し、区内における個人消費を促し、区内商業の活性化に結びつける。</p>

1-2-10

件名	東京スカイツリー®開業 区民祝賀イベントの実施
予算額	48,000千円
主旨	<p>東京スカイツリー®は、開業前から多くの来街者が訪れる等、日本の新たな観光スポットとして大きな注目を集めている。そこで、墨田区は、このスカイツリーの開業を区民全体でお祝いすることによって、区全体の祝賀ムードを大いに盛り上げ、地域の活性化につなげることを目的とした区民による区民のための「区民祝賀イベント」を開催する。</p> <p>本イベントは、スカイツリーの建つ押上・業平橋地区を主たる会場として開催するもので、「パレード部門」、「ステージ部門」、「模擬店部門」の3つの要素で構成し、参加団体を区内の町会・自治会及び区内で活動する各種団体から広く募って開催する。</p>

1-3-1

件名	待機児童解消（保育園の耐震化等）への取組み
予算額	542,625千円
主旨	<p>墨田区では、平成20年度に「墨田区保育園待機児童の解消を目指す緊急3ヵ年計画」を策定し、保育の定員拡大やサービス拡充等に重点的に取り組んできた。その結果、本区の保育所整備率（就学前児童数に対する保育定員の割合）は40%超と23区でもトップクラスとなっており、待機児童数も平成21年4月時点に比べ、2年連続で減少している。</p> <p>しかし、本区の児童数は緩やかに増加しており、保育ニーズも増加傾向にあることから、待機児童解消には今後一層の取組みが必要となっている。</p> <p>そこで、区では、平成24年度も引き続き、保育園及び学童クラブの待機児童の早期解消に取り組むとともに、保育園等の耐震化を進めていく。</p>

1-3-2

件名	新たな子育てニーズへの対応
予算額	46,697千円
<p><b>主 旨</b></p> <p>現在、少子化や核家族化が進み、地域のつながりが薄れつつあるなかで、子育てに関して周囲の手助けを期待することが難しくなり、子育てについての孤立感や負担感が大きくなっている。そのため、子育て家庭がゆとりを持って楽しく子育てができる環境づくりが求められている。</p> <p>そこで、区では、保育所の整備だけではなく、在宅で子育てを行っている家庭でも必要な場合に保育サービスを利用できる「緊急一時保育事業」や「一時預かり事業」、「私立幼稚園での預かり保育事業」等の子育て支援サービスの一層の拡充を図る。これにより、「墨田区基本計画」でリーディングプロジェクトに掲げる「子育て環境の整備」を積極的に進め、若い世代が安心して子育てできる「すみだ」をつくる。</p>	

1-3-3

件名	高齢者みまもり相談室の運営
予算額	141,500千円
<p><b>主 旨</b></p> <p>高齢化が進む中、認知症や閉じこもり等の心配があるひとり暮らし高齢者などに関する相談が増加している。このため、墨田区では、ひとり暮らし高齢者等が住み慣れた地域で安心して生活を続けられるよう、平成23年度までに区内8か所の高齢者支援総合センター（※）の担当地域ごとに「高齢者みまもり相談室」を整備し、民生委員をはじめ町会・自治会、老人クラブ、介護事業者と連携して、地域の高齢者の安否確認・見守り体制づくりを行っている。</p> <p>平成24年度には、既存の高齢者みまもり相談室の機能を強化し、ふれあい訪問や熱中症予防の戸別訪問を行いながら、地域で生活する高齢者の実態把握を進め、地域ごとに、大規模災害発生時に安否確認を要する高齢者の名簿作成にも取り組んでいく。</p>	

1-3-4

件名	大都市・小規模ケアハウスの整備
予算額	138,090千円
主旨	<p>現在、東京都等の都市部において所得の低い高齢者向け住宅の不足が大きな社会問題になっている。</p> <p>この状況を改善するため、国が平成22年4月に従来の軽費老人ホームの基準を大きく緩和した「都市型軽費老人ホーム(※)」を創設したことから、都は「都市型軽費老人ホーム」の整備費補助事業を平成22年度からの3か年計画で開始した。これらを受けて、本区においても、平成22年度から「都市型軽費老人ホーム」の整備事業を実施しており、平成24年度においても引き続き推進する。</p>

2-1-1

件名	すみだ 北斎美術館の建設準備
予算額	66,031千円
主旨	<p>世界的に有名な絵師・葛飾北斎(1760年~1849年)は、本所割下水(現在の墨田区亀沢付近)に生まれ、90年の生涯のほとんどを墨田区とその近辺で過ごした。</p> <p>このことから、墨田区では葛飾北斎の偉業を区民の誇りとして永く顕彰するとともに、新たな文化創造の拠点ともなる「すみだ 北斎美術館」の整備を進める。この施設は、東京スカイツリー®とともに、区が進める国際観光都市づくりの新たな観光の核ともなるものである。</p> <p>平成24年度は、設計補強(震災対応)に取り組むほか、開館に向けたPR活動を推進する。</p>

2-1-2

件名	歴史文化公園の整備
予算額	6,000千円
主旨	<p>墨田区内の公園の中には、地域の歴史や文化を伝える説明看板や石碑、銅像等が設置されているところがあり、公園の雰囲気づくりに大切な役割を果たしている。また、公園周辺にも歴史上の人物や文豪ゆかりの地が点在しており、これらは多くの観光客がすみだの歴史や文化に触れるための貴重な観光資源となっている。</p> <p>このため、地域に点在する文化財等の観光資源を活かした公園改修等を行い、公園利用者に歴史、文化を伝えていく歴史文化公園として整備することにより、区内の観光回遊性を向上させる。</p>

2-1-3

件名	吾妻橋防災船着場の整備
予算額	188,530千円
主旨	<p>現在、墨田区役所脇の隅田川に設置されている吾妻橋防災船着場は、平成2年の区役所庁舎建設に合わせて設置されたものであるが、災害時に大型物資輸送船等が着岸するためには規模が小さく、劣化も進んでいることから、改修が必要となっている。</p> <p>そこで、区は吾妻橋防災船着場を大型船舶が係留できるよう再整備することで、非常時の防災拠点としての強化を図り、また、平常時には観光船着場として活用する。</p>

2-1-4

件名	すみだ花の道の整備
予算額	6,000千円
主旨	<p>街路樹は、都市開発が進む都心部において、潤いのある良好な景観をつくり、歩行者等に安らぎを与えてくれる存在である。</p> <p>現在、植樹から30年～40年経過している街路樹については、大木・老木化が進み、歩行空間への影響が懸念されている。このため、墨田区では、これらの街路樹を花の咲く中高木へ植え替えることによって、区民や来街者に安らぎと潤いを与える良好な歩行空間を整備する。</p>

2-1-5

件名	緑と花のまちづくり推進
予算額	10,212千円
主旨	<p>墨田区は、住宅や事業所等の建物が密集し、地上部に緑を増やすことが困難な状況にある。こうしたことから、区では、区内の緑化を推進するためハンギングバスケットによる壁面緑化や空き地の緑化等を進めるとともに、平成22年度からは、「緑と花のまちづくり推進地域制度」を実施する等区民の安らぎや潤いの場づくりを支援してきた。</p> <p>平成24年度は、東京スカイツリー®の開業年であることから、観光客等が増加することが予想される浅草通りや東京スカイツリー周辺地域を対象に、視覚的な効果のあるハンギングバスケット等を設置することで地域住民や本区を訪れる来街者に潤いと安らぎを与える。</p>

## 2-2-1

件名	両国地区まちづくり（グランドデザインの策定）
予算額	8,000千円
主旨	<p>両国駅周辺は、隅田川や旧安田庭園等の水辺や緑地によるオープンスペースや、国技館や江戸東京博物館といった国際的な文化施設のほか、回向院等の寺社仏閣等、地域資源が豊富な地区であり、墨田区の都市計画マスタープランにおいては広域総合拠点に位置づけられている。しかし、住宅地としての開発が急速に進む中、文化施設等がまちづくりに十分に活かされていないことや観光客の集客が少ない状況であることから、両国地区の地域資源を活かした魅力あるまちづくりが求められている。</p> <p>このため、東京スカイツリー®の波及効果を最大限活用しつつ、両国駅周辺地区に魅力と賑わいを創出するためのまちづくりグランドデザインを策定する。</p>

## 2-2-2

件名	曳舟駅周辺地区の整備
予算額	2,800,137千円
主旨	<p>曳舟駅周辺地区は、墨田区都市計画マスタープランにおいて「広域拠点」として位置づけられており、区北部地域の商業、業務、文化の拠点として中心的な役割を担うこととしている。</p> <p>この「広域拠点」の形成を目指すため、京成押上線の立体化事業と連携して、曳舟駅周辺の再開発事業を推進し土地の高度利用を図るとともに、商業、業務機能と都市型住宅の供給をバランスよく配置した複合市街地を形成し、活力と魅力があるまちづくりを推進する。</p> <p>これまでに、京成曳舟駅前東第一地区（平成19年2月整備完了）、曳舟駅前地区（平成22年11月整備完了）の整備を行っており、平成24年度は、引き続き京成曳舟駅前東第二・第三地区において事業を推進していく。また、都市計画道路である曳舟たから通りの整備は、延長約350mのうち上記再開発事業区域以外の約130mにおいて、平成27年度末までに事業完了を目指す。</p>



2-2-3

件名	京成押上線立体化の推進
予算額	668,949千円
主旨	<p>現在、京成押上線の押上駅～八広駅区間は、踏切による渋滞・事故の発生をはじめとして、地域が分断された状態になっている。</p> <p>そこで、踏切による慢性的な交通渋滞を解消し、鉄道・道路それぞれの安全性の向上を図るために、鉄道と道路の立体交差化により、踏切を除去する。また、高架化された鉄道に沿って環境の保全と円滑な地域内交通の確保を図るために側道を整備する。</p> <p>これらのことにより、これまで鉄道で隔てられていた地域の一体化を実現し、沿線まちづくりの推進を図る。</p>

2-2-4

件名	東武伊勢崎線（曳舟～業平橋駅）立体化の推進
予算額	21,000千円
主旨	<p>東京スカイツリー®の建設地である押上・業平橋駅周辺地区は、鉄道4線が集中する交通の結節点であり、墨田区は本地区を「広域総合拠点」、「国際観光拠点」として位置付け、基盤施設の整備や観光事業等のまちづくりを進めている。</p> <p>このようななかで、スカイツリーが建つ街区の北側にある「東武伊勢崎線第2号踏切」は、地域を分断し、まちの発展を遅らせている要因となっているほか、歩行者等にとって通行の障害になることから、当該踏切の解消はまちづくりを進めるための大きな課題とされてきた。</p> <p>このため、区では、平成20年度に「整備計画検討委員会」を立ち上げ、議論を重ねてきた結果、平成23年度に鉄道立体化の早期事業化の方針を決定した。</p> <p>これに基づいて、平成24年度からは事業の着手に向け、鉄道立体化や東武伊勢崎線北側のまちづくりを推進していく。</p>

2-3-1

件名	買い物弱者への支援強化
予算額	3,000千円
主旨	<p>墨田区内の商店街は、地域住民に日用品等を提供する日常生活に不可欠な存在であるとともに、安心して日々の暮らしを送るために役立つ情報の提供等、地域コミュニティの核としての役割を担っている。</p> <p>このようななか、少子高齢化の進展に伴い、区でも高齢者のひとり住まいや高齢者のみの世帯が増加していることから、食品等の日用品の買い物が困難となる「買い物弱者」の対策をさらに強化することが必要となっている。</p> <p>そこで、区は買い物弱者支援の取組みを行う商店街に、商店街振興補助事業による助成の充実を図る。また、区内商店グループの取組みにも新たに助成することによって、区内商店等の新たなビジネスモデルの構築を促すとともに、買い物弱者支援の商業環境を整備する。</p>

2-3-2

件名	雇用促進就労支援事業（若年者就職サポート事業）
予算額	20,190千円
主旨	<p>墨田区では、40歳未満の若年者を対象とした就職支援「若年者就職サポート事業」を実施しているほか、雇用促進と就労支援のためのウェブサイト「ジョブすみだ」の運営事業やトライアル雇用促進奨励金支給事業等の様々な雇用促進就労支援事業を実施している。また、この一環として、平成24年2月にはハローワーク墨田と連携し、雇用と福祉の一体的支援を行う「就職支援コーナーすみだ」を開設した。</p> <p>しかし、現在、雇用情勢は依然として回復の兆しが見えず、また、就職をした者が短期間で離職するいわゆる「雇用のミスマッチ」や、非正規採用され短期間で解雇される若年者の増加が社会問題になる等、若年者を取り巻く雇用環境は極めて厳しい状況にある。一方で、求職者（特に新卒者）の多くが中小企業についての情報が少ない、安定している等の理由により大企業の就職を希望するため、区内中小企業に求職者の目が向けられていないという現状がある。</p> <p>そこで、区では、若年者就職サポート事業の拡充を行い、若年者に対して区内中小企業の魅力をアピールし、就職のマッチングを図ることにより、区内産業の振興と若年者の就労支援のより一層の強化を図る。</p>

2-4-1

件名	障害児放課後等デイサービス施設の整備
予算額	29,909千円
主旨	<p>墨田区では、知的障害児の放課後等の受入態勢を整備するため、平成22年度から民間事業者が行う知的障害児の放課後支援の拠点「墨田こどもの家（八広四丁目13番3-101号）」及び「(仮称)第2墨田こどもの家（平成24年4月開設予定）」に対して整備援助を行い、都立墨田特別支援学校（八広五丁目10番2号）の生徒を中心に受入れを行っている。</p> <p>一方で、区内には重度の身体障害児を対象とする放課後支援の拠点がなく、家族の介護負担や就労等に対する支援が課題となっている。そこで、区では平成24年度に新たに介護負担の大きい重度身体障害児の受入れを行う事業所を整備することで、家族の介護負担の軽減や保護者の就労支援へと繋げていく。</p>

## 2-4-2

件名	すみだ障害者就労支援総合センターの運営
予算額	140,724千円
主旨	<p>障害者が地域において経済的・社会的に自立し、安定した生活を送るためには、企業就労、在宅就労、起業等の機会拡大や就労定着に係る支援が必要である。そこで、墨田区では、平成24年3月に「すみだ障害者就労支援総合センター」を開設し、本施設を拠点に、さまざまな就労支援策を実施し、多くの障害者の就労を実現させることとしている。そのためには、各事業の周知に積極的に取り組み、利用者拡大を図るとともに、企業等をはじめ多方面での支援者を増やし、“協働支援のネットワーク”を構築していくことが重要である。</p> <p>そこで、同センターでは、平成24年度から3か年にわたり各年度に取り組む目標を定めるとともに、協働(ガバナンス)の理念を踏まえ、福祉人材や地域力を活かした区独自の「すみだスタイル」を導入し、事業を展開していく。施設内訓練にとどまらず、企業訪問による職場開拓や実習の場の確保等魅力あるサービスを提供する施設として利用者・地域・支援者とともに成長していきながら「障害者が働いていること・地域で暮らすこと」が当たり前となる地域社会の実現を目指す。</p>

## 2-4-3

件名	がん対策の充実
予算額	291,922千円
主旨	<p>墨田区では、平成21年11月に「墨田区がん対策基本方針」を策定し、がん予防の取組みを推進している。しかし、がんによる死亡者数は増加傾向にあり、がんの早期発見・早期治療により、がん死亡者数を減少させるためには、検診の受診率向上と定期的な受診の促進を一層進めていく必要がある。このため、平成24年度は、同基本方針に基づき、各種がん検診の受診勧奨を強化するとともに、がん予防に関する正しい知識の普及・啓発を充実させていく。また、新たに「胃がんリスク検診(ABC検診)」を試行的に導入し、胃がんのリスクの高い区民に、効率的に精密検査(胃内視鏡)を勧奨するとともに、早期にリスクを取り除くことにより将来的な胃がんの罹患率の減少を目指す。</p>

2-4-4

件名	放射性物質の測定・監視
予算額	27,767千円
<p><b>主 旨</b></p> <p>東日本大震災に伴う福島第一原子力発電所の事故を受け、放射性物質の身体への影響が懸念されている。このことから、墨田区では、放射線に対する区民の不安を少しでも解消するため、公園や保育園等の公共施設の空間放射線の測定やプール水の測定を行い、区の除染基準を超えた箇所については除染作業を実施してきた。また、給食等の食材（牛乳含む）については平成24年2月から月1回の放射性物質の測定を実施することを決定したところである。平成24年度についても引き続き、放射線の測定及びプール水や食材等の放射性物質の測定を実施する。</p>	

2-4-5

件名	学力向上「新すみだプラン」の推進
予算額	53,812千円
<p><b>主 旨</b></p> <p>墨田区の子どもたちに「確かな学力」を身に付けてもらうため、区では「開発的学力向上プロジェクト」を立ち上げ、学校・家庭・地域の総合的な教育力を向上させるための取組み「学力向上『新すみだプラン』」を策定し、様々な施策を展開してきた。</p> <p>平成24年度は、基礎学力の定着が十分でない子どもの学力の向上を一層図るため、「放課後学習クラブ事業」の拡充をはじめ、平成23年度に開始した、地域の教育支援人材養成のための「すみだSST（School-Support-Teacher）」養成講座」を引き続き実施する等、学校だけでなく家庭や地域との連携を深め、取組みの充実を図っていく。</p>	

2-5-1

件名	まちづくり提案事業の支援（基金設置）
予算額	3,531千円
主旨	<p>墨田区では、区民と区が、地域の課題解決に向けて、ともに考え、ともに行動する「協治（ガバナンス）によるまちづくり」を推進しており、平成23年4月にはそのまちづくりのルールを定める「墨田区協治（ガバナンス）推進条例」を施行した。</p> <p>平成24年度には、地域の課題解決に取り組みたい、地域を盛り上げたい等、区民が主体的に取り組むまちづくり活動を更に推進しようと、新たに「協治（ガバナンス）によるまちづくり提案事業」を実施する。この「協治（ガバナンス）によるまちづくり提案事業」を行うにあたっては、区民や企業の寄付金等を受け入れる「協治（ガバナンス）まちづくり推進基金」を設置し、区民同士の支えあいの中で、自ら課題解決できる地域社会づくりを目指していく。</p>

2-5-2

件名	地域プラザの整備
予算額	821,794千円
主旨	<p>墨田区では、区民の価値観やライフスタイルの変化、地域における課題の変化等に対応し、協治（ガバナンス）を実現するため、区民が地域活動や交流を行うのに適したコミュニティ活動の拠点として、地域プラザの整備を行っている。平成24年度は、平成19年度から整備を進めている旧第五吾嬬小学校の跡地（八広四丁目35番17号）及び旧本所一丁目出張所の跡地（本所一丁目13番4号）の2か所について、それぞれ新築工事を行っていく。</p>

2-5-3

件名	統合新図書館の開館
予算額	1,161,295千円
主旨	<p>情報化や地域コミュニティの希薄化等、社会状況の変化に伴い、区立図書館には、図書の貸出を中心とした従来の図書館サービスに加え、生涯学習やビジネスの支援、子ども読書活動の推進等、サービスのさらなる充実や情報センターとしての役割が期待されている。そこで、狭小化したあずま図書館と老朽化した寺島図書館を統合し、こうしたニーズに十分対応できる図書館を、利便性の高い京成曳舟駅前に整備する。</p>

2-5-4

件名	大学誘致の推進
予算額	4,281千円
主旨	<p>大学は、若者の流れを呼び込む核となる施設である。また、地域の賑わいの創出や、地域経済・商業の活性化、大学の知識・技術を活かした産学官連携の推進、区民の生涯学習の機会の提供と文化活動等の促進などが期待される。</p> <p>そこで、墨田区では、東京スカイツリー®の開業で活性化が期待される押上・業平橋地区に隣接する旧曳舟中学校（文花一丁目18番6号）跡地と旧西吾婦小学校（文花一丁目20番7号）跡地、合計約17,900㎡の土地を一体で有効活用し、大学の誘致を目指す。</p>

## 平成24年度墨田区緊急経済・雇用対策

### ●経済対策

#### 商工業融資の充実

経営安定資金に係る信用保証料の全額補助の継続(平成25年3月末受付分まで)

(借り入れ期間6年・据え置き12ヶ月・利率2.0% 補助率1.8%)

※ 景況悪化の影響を受けている区内中小企業への緊急対策として、平成20年度から継続実施

116,928千円

### ●国等の緊急経済対策関連補助金を活用して実施する事業

消費者センター事業(地方消費者行政活性化交付金:都)

- ・消費者行政の普及啓発の強化

6,334千円

### ●雇用対策

#### ①雇用促進就労支援事業

- ・「就職支援コーナーすみだ」 雇用と福祉の一体的就労支援
- ・「若者サポートコーナー」 区内中小企業の発掘、個別相談等
- ・雇用・就労支援サイト「ジョブすみだ」の運営(求人・内職・登録事業者等の情報掲載)
- ・ハローワーク墨田との連携・共催(合同就職面接会、トライアル雇用企業見学会等)
- ・トライアル雇用促進奨励金

20,190千円

#### ②すみだ障害者就労支援総合センター事業

- ・就労支援総合相談室:一般就労希望の障害者に対する相談・助言等
- ・就労移行支援:就労に向けた、必要な能力・知識を得るための職業訓練や就労支援等
- ・就労障害者生活支援:就労定着を目指した生活全般の支援相談等
- ・手話通訳等派遣事務所:聴覚障害者等を対象とした生活支援や手話通訳者・要約筆記者の派遣等

※ 平成24年3月開設予定

140,724千円

#### ③住宅手当緊急特別措置事業

離職者に対して、住宅手当を支給:補助率10/10

45,737千円

#### ④就労促進事業

被保護者に対する就労支援の充実:補助率10/10

5,380千円

#### ⑤緊急雇用創出事業

国の緊急雇用関連補助金を活用し、雇用創出効果の高い委託事業等を実施する

84,408千円



補助金名	事業名	予算額 (千円)
緊急雇用創出 補助金(国)	法務課所管マイクロフィルムデータコンバート【24年度新規】	3,255
	路上喫煙防止パトロール	9,360
	東京スカイツリー周辺におけるまちの美化事業【24年度新規】	17,946
	保育園施設修繕・縫製作業巡回事業	5,428
	東京スカイツリー内覧会における誘導・案内等業務委託【24年度新規】	1,512
	区内循環バスの運行に伴うスクールゾーン警備委託【24年度新規】	430
	建築確認申請受付簿台帳の入力	1,250
	押上駅前自転車駐車場管理委託【24年度新規】	37,963
	新タワー周辺地区特別警備事業	3,985
	文化財情報の活用（データ入力作業委託）【24年度新規】	3,279

合計 419,701千円